

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : ネオカルオキソ

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 : 酸素供給剤

会社情報

保土谷化学工業株式会社

アグロ事業部

105-0021

東京都港区東新橋 1-9-2

T 03-6852-0380 - F 03-6274-5814

nouyaku@hodogaya.co.jp

緊急連絡電話番号

緊急連絡電話番号 : 03-6852-0415
環境安全部

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理的危険性	酸化性固体	区分 3
健康有害性	皮膚腐食性/刺激性	区分 1
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 1
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 1 (呼吸器系)
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 2 (肺)

ラベル要素

絵表示 (GHS JP)



注意喚起語 (GHS JP)

: 危険

危険有害性 (GHS JP)

: 火災助長のおそれ: 酸化性物質 (H272)
重篤な皮膚の薬傷及び目の損傷 (H314)
臓器の障害 (呼吸器系) (H370)
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ (肺) (H373)

注意書き (GHS JP)

安全対策

: 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。(P210)
衣類及び可燃物から遠ざけること。(P220)
粉じん、ヒュームを吸入しないこと。(P260)
取扱い後は手をよく洗うこと。(P264)
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。(P280)

安全データシート

ネオカルオキソ

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

応急措置

- ： 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。(P301+P330+P331)
 - 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水で洗うこと。(P303+P361+P353)
 - 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
 - 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
 - ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。(P308+P311)
 - 直ちに医師に連絡すること。(P310)
 - 気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。(P314)
 - 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。(P363)
- 保管
- ： 施錠して保管すること。(P405)
- 廃棄
- ： 内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

： 混合物

化学名

： 過酸化カルシウム、水酸化カルシウムの混合物

名前	濃度 (%)	官報公示整理番号		CAS 番号
		化審法番号	安衛法番号	
水酸化カルシウム	34	(1)-181	化審法と同じ	1305-62-0
表面処理炭酸カルシウム	34	(1)-122	化審法と同じ	471-34-1
過酸化カルシウム	24	(1)-190	化審法と同じ	1305-79-9

4. 応急措置

応急措置

応急措置 一般

： 直ちに医師の診察を受ける。

吸入した場合

： 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合

： 皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。
直ちに医師の診察を受ける。

眼に入った場合

： 水で数分間注意深く洗うこと。
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師の診察を受ける。

飲み込んだ場合

： 口をすすぐこと。
無理に吐かせてはいけない。
直ちに医師の診察を受ける。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候及び症状

症状/損傷 皮膚に付着した場合

： 火傷。

症状/損傷 眼に入った場合

： 眼に重度の損傷を与える。

安全データシート

ネオカルオキソ

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

症状/損傷 飲み込んだ場合 : 火傷。

医師に対する特別な注意事項

その他の医学的アドバイスまたは治療 : 対症的に治療すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤 : 水噴霧
使ってはならない消火剤 : 乾燥粉末消火剤、泡消火剤
火災危険性 : 火災助長のおそれ：酸化性物質。
火災時の危険有害性分解生成物 : 有毒な煙を放出する可能性がある。
消火時の保護具 : 適切な保護具を着用して作業する。
自給式呼吸器。
完全防護服。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

非緊急対応者

応急処置 : 漏出エリアを換気する。
裸火、火花禁止、禁煙。
粉じん、ヒュームを吸入しないこと。
皮膚、眼との接触を避ける。

緊急対応者

保護具 : 適切な保護具を着用して作業する。
詳細については、第 8 項の「ばく露制御/個人保護」を参照。

環境に対する注意事項

環境に対する注意事項 : 環境への放出を避けること。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

浄化方法 : 製品は機械的に回収する。
本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。
その他の情報 : 物質または固形残留物は公認施設で廃棄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 : データなし
安全取扱注意事項 : 作業所の十分な換気を確保する。
熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。
個人用保護具を着用する。
粉じん、ヒュームを吸入しないこと。
皮膚、眼との接触を避ける。

接触回避 : データなし

安全データシート

ネオカルオキソ

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

衛生対策 : 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
製品取扱い後には必ず手を洗う。

保管
安全な保管条件 : 施錠して保管すること。
換気の良い場所で保管すること。
涼しいところに置くこと。

安全な容器包装材料 : データなし
混触禁止物質 : 可燃性物質。

8. ばく露防止及び保護措置

水酸化カルシウム (1305-62-0)	
日本 - ばく露限界値	
許容濃度 (ACGIH)	TWA 5 mg/m ³ , STEL -

設備対策 : 作業所の十分な換気を確保する。

保護具

呼吸用保護具 : 換気が不十分である場合、適切な呼吸器を着用する。

手の保護具 : 保護用手袋

眼の保護具 : 安全メガネ

皮膚及び身体の保護具 : 適切な保護衣を着用する。

個人用保護具シンボル



環境へのばく露の制限と監視 : 環境への放出を避けること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態 : 固体
外観 : 粒状
色 : 類白色
臭い : データなし
pH : アルカリ性を示す
融点 : データなし
凝固点 : データなし
沸点 : データなし
引火点 : データなし
自然発火点 : データなし
分解温度 : データなし
可燃性 : データなし
蒸気圧 : データなし
相対密度 : データなし
密度 : データなし
相対ガス密度 : データなし

安全データシート

ネオカルオキソ

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

かさ密度	: 0.75~0.94g/mL (見掛比重)
溶解度	: 次の中ではほとんど溶けない: 水。
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	: データなし
爆発限界 (vol %)	: データなし
動粘性率	: データなし
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 発火又は火災助長のおそれ: 酸化性物質。
化学的安定性	: 通常の条件下では安定。
危険有害反応可能性	: 通常の使用条件下において、危険な反応は全く知られていない。
避けるべき条件	: 高温面との接触を避ける。熱。炎や火花の禁止発火源をすべて断つ。
混触危険物質	: 可燃性物質。
危険有害な分解生成物	: 通常の使用条件及び保管条件下において、有害な分解生成物は生成されない。

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)	: 分類できない
急性毒性 (経皮)	: 分類できない
急性毒性 (吸入)	: 分類できない (気体) 分類できない (蒸気) 分類できない (粉じん、ミスト)

水酸化カルシウム (1305-62-0)	
急性毒性 (経口)	ラットの LD50 値として、7,340mg/kg との報告 (ACGIH (7th, 2001)、HSDB (Access on September 2014)) に基づき、区分外とした。
急性毒性 (経皮)	データ不足のため分類できない。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義における固体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	GHS の定義における固体である。
急性毒性 (吸入:粉末)	データ不足のため分類できない。
LD50 経口 ラット	7340 mg/kg
LD50 経皮 ラット	> 2500 mg/kg
LC50 吸入 - ラット	> 6.04 mg/l/4h
表面処理炭酸カルシウム (471-34-1)	
LD50 経口 ラット	6450 mg/kg
LD50 経皮 ラット	> 2000 mg/kg
LC50 吸入 - ラット	> 3 mg/l/4h
過酸化カルシウム (1305-79-9)	
急性毒性 (経口)	ラット LD50 値は >5400 mg/kg と 8640 mg/kg (農薬安全情報 農薬時報別冊 (1994)) の結果から区分外とした。

安全データシート

ネオカルオキソ

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

過酸化カルシウム (1305-79-9)	
急性毒性 (経皮)	ラット LD50 値は >5400 mg/kg (農薬安全情報 農薬時報別冊 (1994)) に基づき、区分外とした。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義における固体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	データなし。
急性毒性 (吸入:粉末)	ラット LC50 値は >1.75 mg/L/4h (農薬安全情報 農薬時報別冊 (1994)) との結果があるが、区分が特定できず分類できない。

皮膚腐食性/刺激性 : 重篤な皮膚の薬傷

ネオカルオキソ	
pH	アルカリ性を示す

水酸化カルシウム (1305-62-0)	
皮膚腐食性/刺激性	本物質は強塩基性物質 (pH 10.9-11.9 (EPA Pesticide (2005))) であり、身体表面に中等度の腐食又は刺激作用を持つとの記載がある (ACGIH (7th, 2001))。また、本物質はヒトの皮膚に対して中等度の刺激性を示すとの記載 (IUCLID (2000)) や、軽度の刺激性を示す (EPA Pesticide (2005)) との記載がある。以上の情報から、本物質は強塩基性物質であるが、皮膚への影響は「中等度又は軽度」との記載から、区分 2 とした。

過酸化カルシウム (1305-79-9)	
皮膚腐食性/刺激性	ウサギに粉剤 0.5 g を 4 時間適用した皮膚一次刺激性試験において、いずれの観察時間においても皮膚に変化は認められず、皮膚一次刺激性はないものと判断された (農薬安全情報 農薬時報別冊 (1994)) ことから、区分外とした。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 重篤な眼の損傷

ネオカルオキソ	
pH	アルカリ性を示す

水酸化カルシウム (1305-62-0)	
眼に対する重篤な損傷又は刺激性	本物質は強塩基性物質 (pH 10.9-11.9 (EPA Pesticide (2005))) であり、身体表面に中等度の腐食又は刺激作用を持つとの記載がある (ACGIH (7th, 2001))。また、本物質は眼に対して腐食性を示す (IUCLID (2000)) との報告や、非可逆的な傷害を与える (EPA Pesticide (2005)) との記載がある。以上の結果から、区分 1 とした。

過酸化カルシウム (1305-79-9)	
眼に対する重篤な損傷又は刺激性	ウサギに粉剤 0.1 g を適用した眼一次刺激性試験において、非洗眼群で角膜に混濁または白濁、虹彩の充血、結膜の発赤及び浮腫等が認められ 21 日まで残存したことに加え、これは成分の過酸化カルシウムが湿潤な条件で水酸化カルシウムに加水分解され、強いアルカリ性によって生じたものであるとの記述 (農薬安全情報 農薬時報別冊 (1994)) があることから、区分 1 とした。

呼吸器感受性 : 分類できない

皮膚感受性 : 分類できない

水酸化カルシウム (1305-62-0)	
呼吸器感受性	データ不足のため分類できない。

安全データシート

ネオカルオキソ

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

水酸化カルシウム (1305-62-0)	
皮膚感作性	データ不足のため分類できない。
過酸化カルシウム (1305-79-9)	
呼吸器感作性	データなし。
皮膚感作性	モルモットを用いた Maximization 法において、当該粉剤感作群及び対照群の一部の動物に極く軽度の紅斑が見られ、一方、陽性対照群では明らかな紅斑と痂皮形成及び浮腫が認められたことから、皮膚感作性は陰性であると判断したとの報告（農薬安全情報 農薬時報別冊（1994））に基づき、区分外とした。
生殖細胞変異原性	: 分類できない
水酸化カルシウム (1305-62-0)	
生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない。 In vivo データはなく、 in vitro では、哺乳類及びヒト培養細胞を用いるコメットアッセイで陰性である（HSDB (Access on September 2014)）。
過酸化カルシウム (1305-79-9)	
生殖細胞変異原性	in vivo の試験データがなく、分類できない。なお、 in vitro の試験として、エームス試験において陰性（農薬安全情報 農薬時報別冊（1994））との報告がある。
発がん性	: 分類できない
水酸化カルシウム (1305-62-0)	
発がん性	データ不足のため分類できない。
過酸化カルシウム (1305-79-9)	
発がん性	データなし。
生殖毒性	: 分類できない
水酸化カルシウム (1305-62-0)	
生殖毒性	データ不足のため分類できない。
過酸化カルシウム (1305-79-9)	
生殖毒性	データなし。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 臓器の障害 (呼吸器系)
水酸化カルシウム (1305-62-0)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	本物質のデータは限られているが、ヒトに気道刺激性、粘膜腐食性があり、咳、粘膜の火傷、肺水腫、嘔吐、胃痙攣を引き起こすとの報告がある (ACGIH (7th, 2001)、EPA Pesticide (2005)、HSDB (Access on September 2014))。実験動物のデータはない。以上より、ヒトの気道を刺激し肺水腫を引き起こすとの記載があることから、区分 1 (呼吸器) とした。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	臓器の障害 (呼吸器系)

安全データシート

ネオカルオキソ

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

過酸化カルシウム (1305-79-9)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ラットに 8640 mg/kg を経口投与直後から嗜眠、立毛及び軽度の利尿が認められたが、4 日以内に回復し、剖検でも異常は認められなかった（農薬安全情報 農薬時報別冊）。また、マウス及びラットに 5400 mg/kg を経皮投与後、一般状態に異常は認められず、また、塗布部位の皮膚にも著変はなく、剖検所見でも異常は認められなかった（農薬安全情報 農薬時報別冊）。一方、ラットに 1.75 mg/L を粉塵として 4 時間吸入ばく露し、死亡及び被験物質による症状を認めず、病理解剖学的検査においても被験物質による異常は何ら観察されなかったとの結果がある（農薬安全情報 農薬時報別冊）。以上から経口および経皮ばく露では区分 2 のガイダンス値を超えた用量で重大な毒性影響が認められていないことから区分外に相当するが、吸入ばく露では区分 2 のガイダンス値付近の用量による試験結果がないため総合してデータ不足により分類できない。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ (肺)
水酸化カルシウム (1305-62-0)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	本物質は慢性的な経口摂取により、口腔内及び消化管への刺激による炎症性、又は潰瘍性変化を生じることがある (HSDB (Access on September 2014)) との記述、並びにラットに 3 ヶ月間飲水投与した試験において、肝臓、腎臓、胃に萎縮性変化、小腸に炎症がみられた (IUCLID (2000)) との記述があるが、投与量を含め詳細が不明で分類に利用できない。すなわち、データ不足のため分類できない。なお、本物質は米国 FDA で GRAS (Generally Recognized As Safe) 物質に認定されており、添加物としての食品への通常使用においては安全性が確立している (EPA RED (2005))。また、旧分類は List2 の情報源を基に区分 2 (肺) と分類されたが、今回の List2 の情報源 (HSDB、IUCLID) からは「呼吸器系」を標的臓器とする影響は急性ばく露影響 (ヒトで吸入により上気道の不快感、咳、胸痛、粘膜の化学性火傷、肺水腫を生じることがある (HSDB (Access on September 2014)) としては確認できたが、反復ばく露影響として分類する根拠は乏しいと判断した。
過酸化カルシウム (1305-79-9)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データなし。
誤えん有害性	: 分類できない
水酸化カルシウム (1305-62-0)	
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。
過酸化カルシウム (1305-79-9)	
誤えん有害性	データなし。

12. 環境影響情報

生態毒性

生態系 - 全般	: 中和していない場合、水生生物に有害であることがある。
水生環境有害性 短期 (急性)	: 分類できない
水生環境有害性 長期 (慢性)	: 分類できない

水酸化カルシウム (1305-62-0)	
水生環境有害性 短期 (急性)	データ不足のため分類できない。

安全データシート

ネオカルオキソ

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

水酸化カルシウム (1305-62-0)	
水生環境有害性 長期 (慢性)	データ不足のため分類できない。
BCF - 魚 [1]	(no bioaccumulation)
表面処理炭酸カルシウム (471-34-1)	
BCF - 魚 [1]	(no bioaccumulation)
過酸化カルシウム (1305-79-9)	
水生環境有害性 短期 (急性)	データなし。
水生環境有害性 長期 (慢性)	データなし。

残留性・分解性

ネオカルオキソ	
残留性・分解性	データなし
水酸化カルシウム (1305-62-0)	
急速分解性でない	
表面処理炭酸カルシウム (471-34-1)	
急速分解性でない	
過酸化カルシウム (1305-79-9)	
急速分解性でない	

生体蓄積性

ネオカルオキソ	
生体蓄積性	データなし
水酸化カルシウム (1305-62-0)	
BCF - 魚 [1]	(no bioaccumulation)
表面処理炭酸カルシウム (471-34-1)	
BCF - 魚 [1]	(no bioaccumulation)

土壌中の移動性

ネオカルオキソ	
土壌中の移動性	データなし

オゾン層への有害性

オゾン層への有害性 : 分類できない

13. 廃棄上の注意

廃棄方法 : 許可を得た収集業者の分別回収に準拠して内容物/容器を廃棄する。

安全データシート

ネオカルオキシソ

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

14. 輸送上の注意

国際規制

国連勧告(UNRTDG)

国連番号(UN RTDG) : 1479
正式品名 (UN RTDG) : その他の酸化性物質 (固体) (他の危険性を有しないもの)
容器等級(UN RTDG) : III
輸送危険物分類 (UN RTDG) : 5.1
危険物ラベル (UN RTDG) : 5.1



クラス (UN RTDG) : 5
区分 (UN RTDG) : 5.1
少量危険物 (UN RTDG) : 5 kg
微量危険物 (UN RTDG) : E1
包装指令 (UN RTDG) : P002、IBC08、LP02
特別包装規定 (UN RTDG) : B3
ポータブルタンク及びバルクコンテナ/要件 (UN RTDG) : T1
ポータブルタンク及びバルクコンテナ/特別要件 (UN RTDG) : TP33

海上輸送(IMDG)

国連番号 (IMDG) : 1479
正式品名 (IMDG) : OXIDIZING SOLID, N.O.S.
容器等級(IMDG) : III
輸送危険物分類 (IMDG) : 5.1
危険物ラベル (IMDG) : 5.1



クラス(IMDG) : 5.1
区分(IMDG) : 5.1
特別規定 (IMDG) : 223、274、900
少量危険物(IMDG) : 5 kg
微量危険物(IMDG) : E1
包装要件(IMDG) : P002、LP02
IBC 包装要件(IMDG) : IBC08
IBC 特別規定(IMDG) : B3
ポータブルタンク包装規定 (IMDG) : T1
輸送特別規定-タンク(IMDG) : TP33
積載区分 (IMDG) : B
緊急時応急措置指針番号 : 140

安全データシート

ネオカルオキソ

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

航空輸送(IATA)

国連番号 (IATA) : 1479
正式品名 (IATA) : Oxidizing solid, n.o.s.
容器等級 (IATA) : III
輸送危険物分類 (IATA) : 5.1
危険物ラベル (IATA) : 5.1



クラス (IATA) : 5.1
区分(IATA) : 5.1
PCA 微量危険物(IATA) : E1
特別管制区(PCA)少量危険物(IATA) : Y546
特別管制区(PCA)数量限定物の最大積載量 (IATA) : 10kg
PCA 包装要件(IATA) : 559
特別管制区(PCA)最大積載量(IATA) : 25kg
CAO 包装要件(IATA) : 563
貨物機専用(CAO)最大積載量 (IATA) : 100kg
特別規定(IATA) : A3、A803
ERG コード (IATA) : 5L

海洋汚染物質 : 非該当

国内規制

海上規制情報 : 船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報 : 航空法の規定に従う。
緊急時応急措置指針番号 : 140
その他の情報 : 補足情報なし

15. 適用法令

国内法令

労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9）
危険物・酸化性の物（施行令別表第1第3号）
名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9）
水酸化カルシウム（政令番号：317）
海洋汚染防止法 : 有害液体物質（Y類物質）（施行令別表第1）
外国為替及び外国貿易法 : 輸出貿易管理令別表第1の16の項
船舶安全法 : 酸化性物質類・酸化性物質（危規則第2、3条危険物告示別表第1）
航空法 : 酸化性物質類・酸化性物質（施行規則第194条危険物告示別表第1）
港則法 : その他の危険物・酸化性物質類（酸化性物質）（法第21条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表）

安全データシート

ネオカルオキシ

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

道路法

: 車両の通行の制限（施行令第19条の13、（独）日本高速道路保有・債務返済機構公示第12号・別表第2）

16. その他の情報

免責条項 当該シートに記載されている情報は信頼できる情報をもとにしているが、情報の正確性について明示・暗示を問わずいかなる保証をするものではない。製品の取扱い、使用、保管または廃棄条件は当社の管理外であり、我々の認知するところではないことがある為、製品の取扱い、使用、保管または廃棄によって生じる損失、損害または費用に対する責任は、直接・間接を問わず一切負わない。当該シートは本製品にのみ使用するべきである。本製品がその他の製品の成分として使用される場合は、当該シートに記載されている情報が適用されないことがある。